

第539回 放送番組審議会

1. 日 時 2018年3月23日(金) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 6名

委員長	五日市 知香
副委員長	三浦 茂樹
委員	恒川 かおり
委員	大橋 綾子
委員	佐藤 俊彰
委員	佐藤 健志

欠席委員 3名

委員	照井 勝也
委員	大内 敦
委員	加藤 千晶

社側出席者

檜崎 憲二	(代表取締役会長)
榎野 信治	(代表取締役社長)
山口 英二	(専務取締役)
青山 尚之	(常務取締役 兼 編成局長)
柴柳 二郎	(報道制作局長)
堺 康規	(報道制作局次長)

事務局	遠藤 隆 (編成局放送番組審議会事務局長)
	平山 亜希子 (編成局編成部副部長)

4. 議 題

- 3/11 (日) 11:40～13:15 報道特別番組
復興そして自立への道 ～東日本大震災から7年～
- その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意 見

◎委員側意見

○7年が経過した今を伝えるということだけではなく、個人に焦点を当てた取材や阪神淡路大震災から学ぶなど、東日本大震災の今の課題というものを浮き彫りにした質の高い報道番組だった。

○被災した方の話で「仮設から出た時はほっとした一方で後ろめたさもあった。」とか、大槌から遠野に転居された方も「後ろめたさという事ではなくて逃げた。」とコメントをされていた。被災者のこうした気持ちをきちんと報道できたという点でもよかった。

○1時間半と番組尺が長いがその番組が短く感じるくらい取材も充実していた。取材をした人、された人、双方多くの方の思いが詰まった番組だという事がよく伝わってきた。

○心の復興をスマイルピアノ500を切り口に取り上げていて印象的だった。ピアノがある生活が戻って家族の笑顔が溢れる事が明日に向かって歩んで、日常生活を取り戻した事の象徴になるという捉え方で紹介をされていたのが、印象的だった。

○神戸の失敗を現地に行って改めて取材をされていた事。番組の厚みが非常に増した。

○風化対策で高田の祈念公園の話の紹介にとどまってしまって、もう少し県内各地の震災以降の問題や県内の風化を防ぐための取り組みや必要性をもう少し県内に即して踏み込んであるといいかなと思った。

○多くの方が取材される方として登場した事が何より良かった。特に様々な年齢の方が取り上げられていて、夢を子ども達でもなく若者でもなく87歳の方が語っていてすごい事だなと思った。

○阪神大震災取材時の34歳の時のキャスターが、かつての映像とともに、その後の状況を同じ人が伝えるという事に対してすごく良いなと思った。

○被災地の映像を被災前、被災直後、現在それを切り取るように見せた事が印象的だった。

○せっかく高田の街を取材したので、空や高台からの映像だけではなく下からの映像もぜひ撮っていただきたいかった。道路を走ると両側が土で、土の壁の中を延々と走っていく。かさ上げをして全然上が見えない。おそらく、これを見ると復興はまだ続く、まだまだ続くというのが伝わったんじゃないかなと思う。

○今回の事業者に対する取材が小売業と飲食業だけだったのが残念だった。例えば、沿岸部であれば代表的な水産業、製造業、建設業など、いろいろな業界があるが、この復興の状況もぜひ取材して頂きたかった。

◎局側意見

○今回の番組に関して、被災者のみなさんが想いをストレートに語ってくれた、これが非常に番組の内容を濃くしてくれたのかなと考えている。

○風化の問題につきましては、今後8年、9年、10年と年月を重ねると、ますます重要

なテーマになるので、風化の問題、心の復興、心のケア、このあたりも今後重要なテーマとしまして取材を続けて、来年以降、番組に活かしていきたい。震災以降についても、今回陸前高田の復興祈念公園だけでしたが、来年以降ますます動きが出てくるし、高田以外にも震災の記憶を残す取り組みがあるので、そのへんもきめ細やかに取材をして紹介していきたい。

○津波映像に関しては、被災エリアの放送局の中で最も早く、津波映像を繰り返し流すのを止めた。使うべき時には使ってはいるが、今回に関してはこれは使わなきゃ伝わらないだろうというテーマにならなかったなので使用しなかった。

3月番組審議会（今回）のテレビ放送

3月27日（火）11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」